記者発表資料

令和元年１１月２２日
国　土　交　通　省
湯沢河川国道事務所
山形河川国道事務所

東北中央自動車道「一般国道１３号真室川雄勝道路」工事に着手
～１２月１４日（土）に起工式を行います～

〇真室川雄勝道路は、東北中央自動車道の一部を構成する延長７．２ｋｍの自動車専用道路で、平成２９年度に事業化されました。
〇これまで調査設計等を進めてきたところですが、このたび工事着手する運びとなりました。つきましては工事の安全・早期完成を祈念し、起工式を執り行うこととしましたのでお知らせします。

■起工式

日　　時：　令和元年１２月１４日（土）１１時３０分より

場　　所：　秋田県湯沢市上院内 地内（別紙－１参照）

主　　催：　秋田県、山形県、湯沢市、真室川町、東北地方整備局

実施内容：　挨拶、来賓祝辞、鍬入れ式等

※　現地には駐車場を用意しております。現地の誘導に従い駐車をお願いいたします。なお、会場内に受付を用意しております。

●発表記者先（湯沢河川国道事務所）
＜秋田県政記者会、横手記者会、秋田魁新報社湯沢・大曲支局、建設新聞社秋田支局、秋田建設工業新聞社、秋田民報＞
●発表記者先（山形河川国道事務所）
＜山形県政記者クラブ、新庄新聞放送記者会、山形建設業界専門紙＞

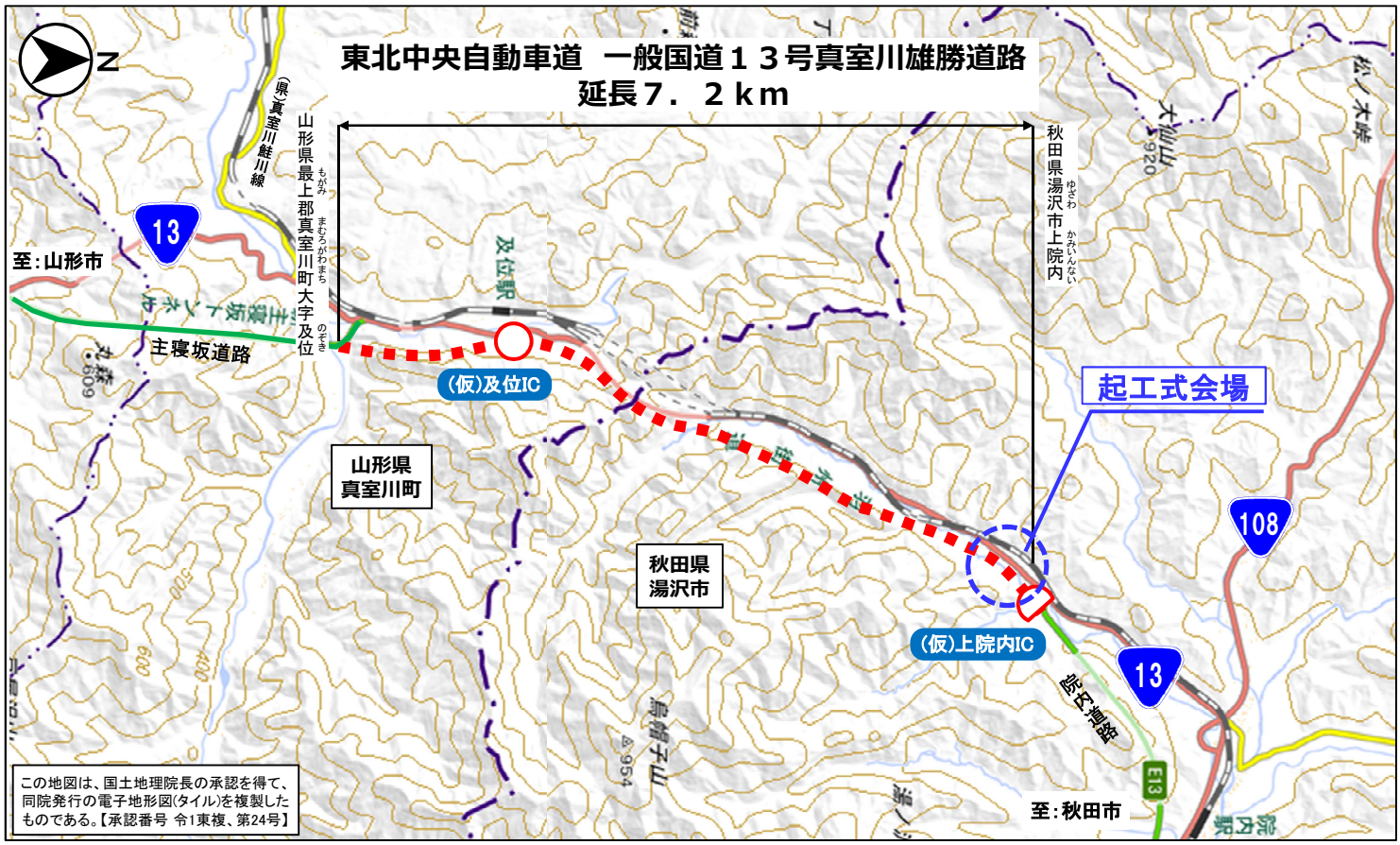
問　い　合　わ　せ　先

国土交通省　東北地方整備局　湯沢河川国道事務所
電話番号：０１８３－７３－３１７４
副所長（道路担当）　鈴木　之　（内線２０５）

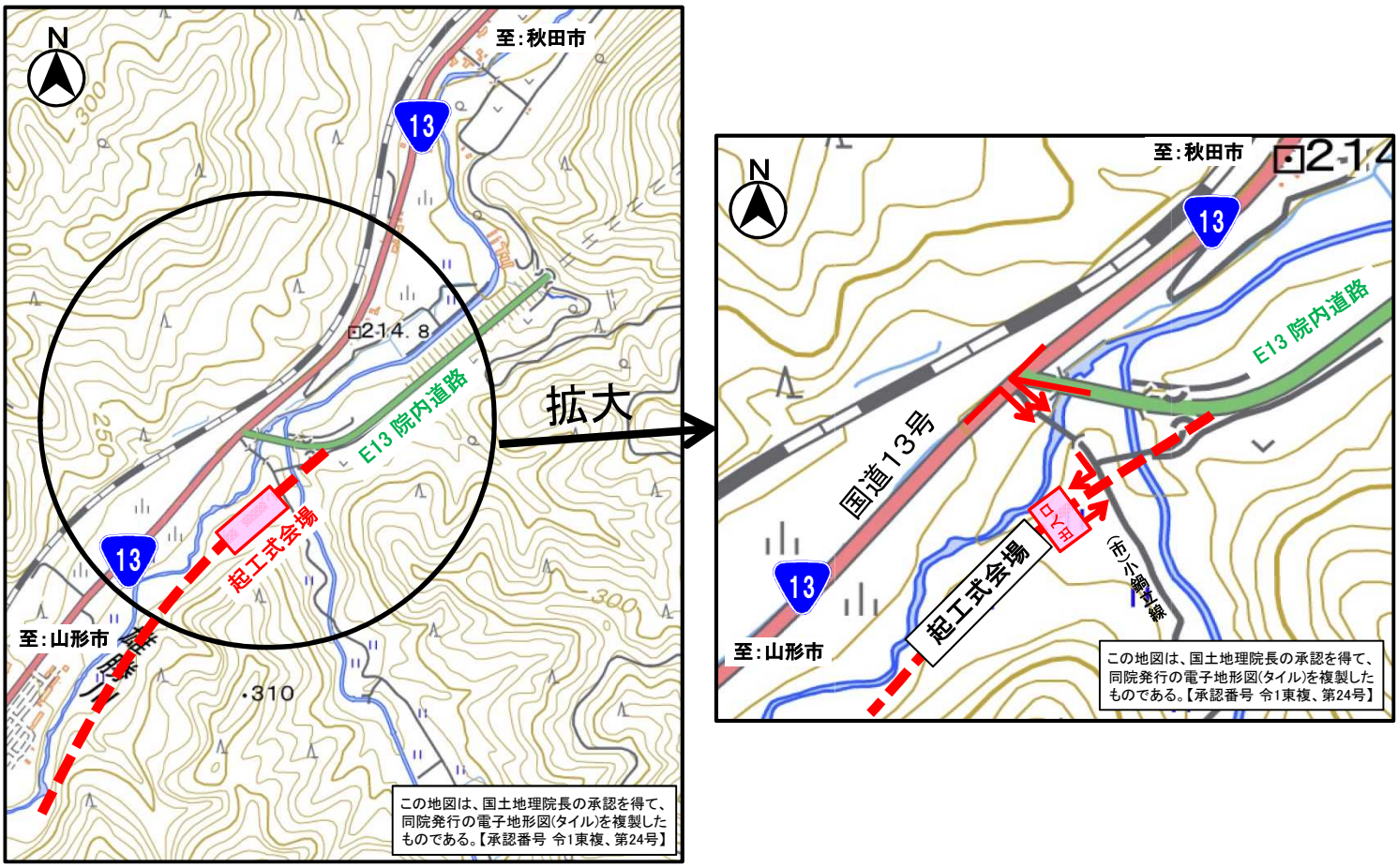
国土交通省　東北地方整備局　山形河川国道事務所
電話番号：０２３－６８８－８４２１
副所長（道路担当）　石井　真吾　（内線２０５）

別紙－１

【東北中央自動車道「一般国道13号　真室川雄勝道路」位置図】



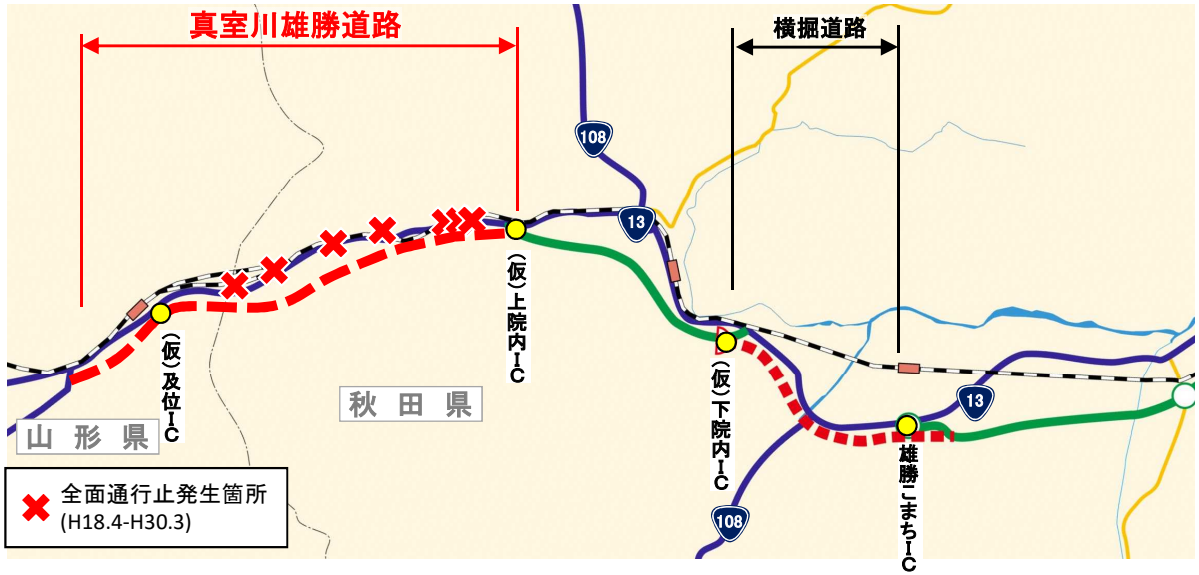
起工式会場詳細図



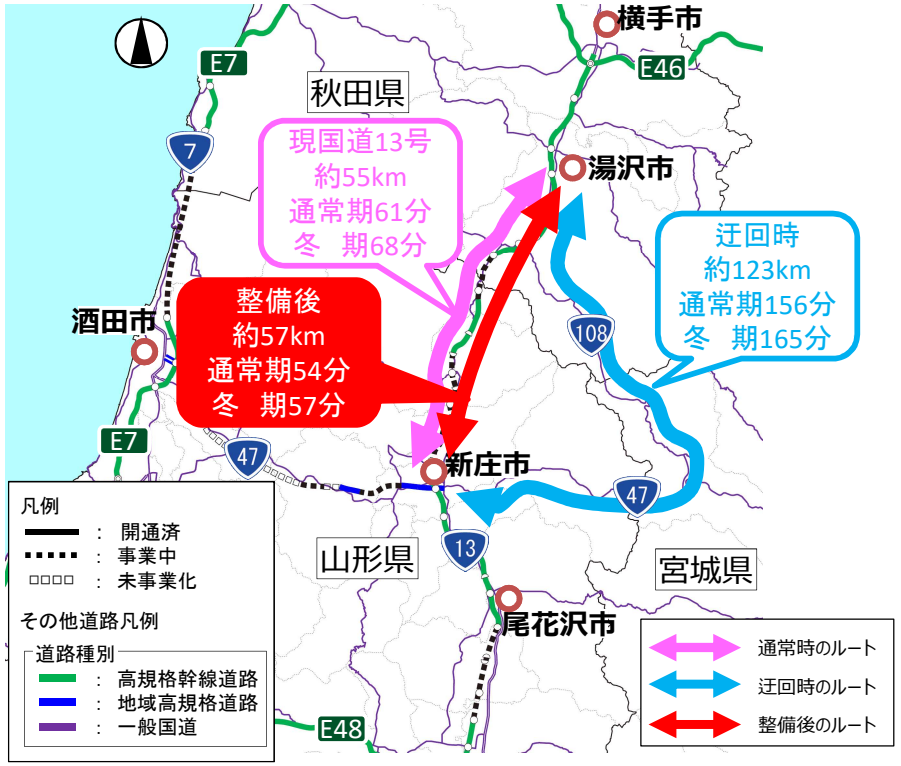
積雪期の交通機能の改善

◆当地域は特別豪雪地帯に位置づけられ、雪崩等による通行止めや、雪崩・落雪予防作業に伴う交通規制など、冬期に交通機能が著しく低下

◆真室川雄勝道路を含む東北中央自動車道の整備により、通行止め時の広域迂回の解消、冬期走行環境が改善され、山形・秋田県間の生活・産業を支援



▼整備による時間短縮及び広域迂回解消



【速達性の向上】新庄市～湯沢市

通常期：現況61分→整備後（全線開通）54分（7分短縮）

冬　期：現況68分→整備後（全線開通）57分（11分短縮）

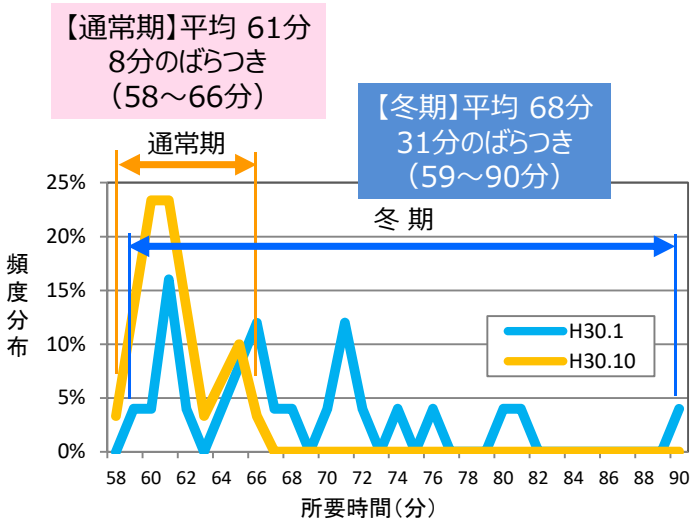
【広域迂回の解消】新庄市～湯沢市

現況（広域迂回時）：123km　156分

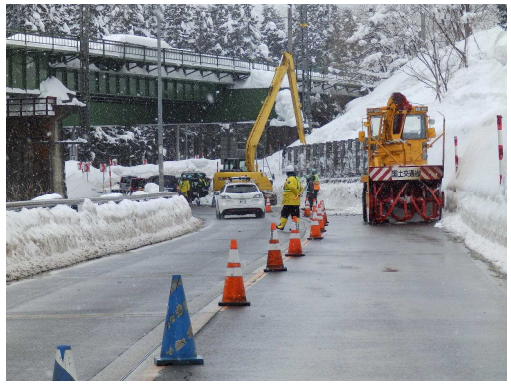
→整備後（全線開通）：57km　54分（約6割減少）

出典：供用区間はETC2.0プローブデータ。（通常期：H30.10、冬期：H30.1）
供用区間でETC2.0プローブデータが無いところは規制速度。
その他事業中区間（未供用）は80km/hで算出。

※各市役所間の所要時間、現況：R元.8月末時点



▲新庄市～湯沢市間の移動時間分布

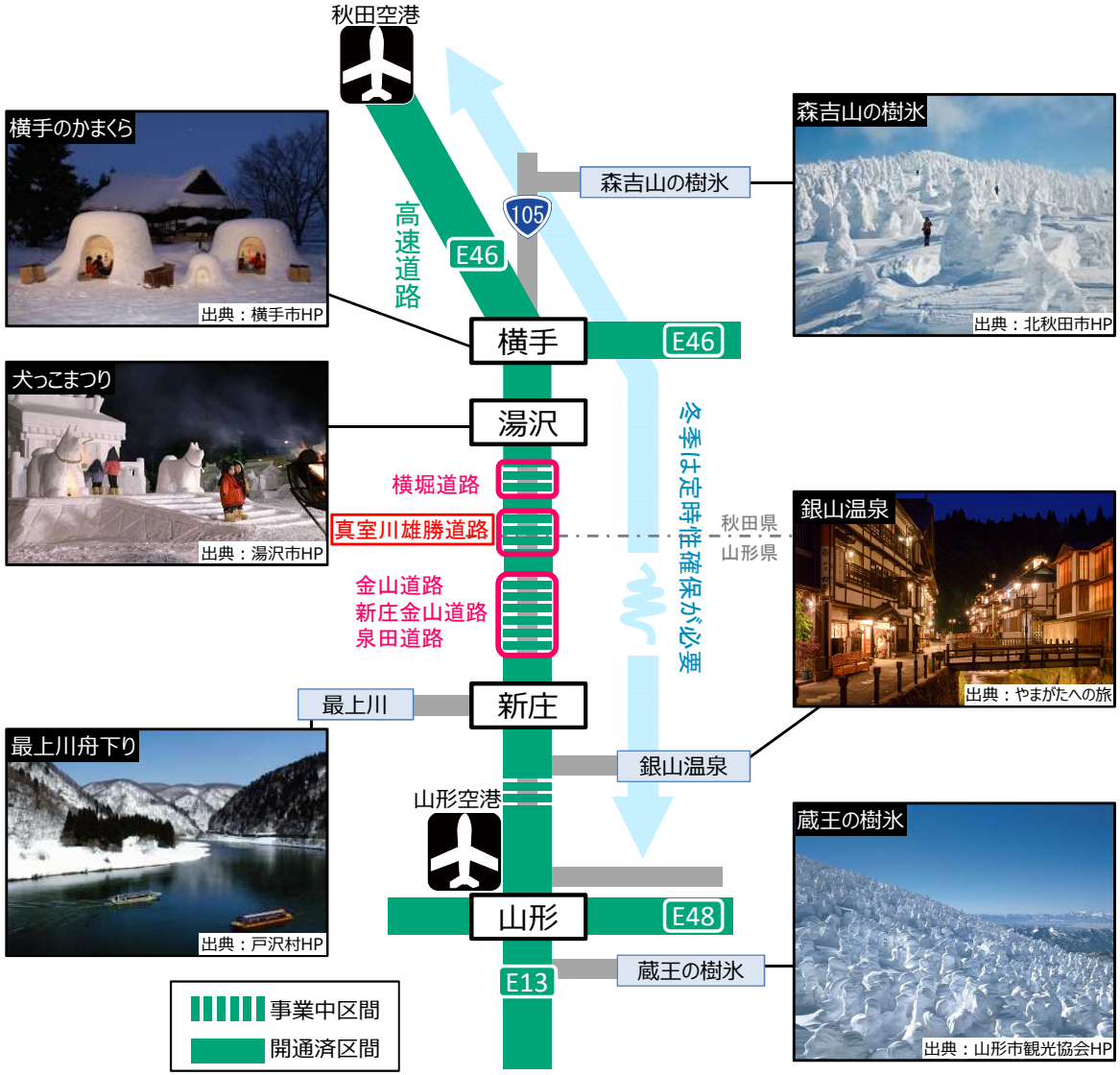


雪崩・落雪予防作業に伴う片側交互通行規制

冬期周遊観光を支援

◆山形・秋田両県では、豊富な冬期観光資源を活かし、県境を跨ぐインバウンドの拡大に向けた取組みを推進しており、冬期の訪日外国人宿泊数は、年々増加傾向
◆真室川雄勝道路を含む東北中央自動車道の整備により、冬期の定時性が向上し、山形・秋田両県を跨ぐ冬期周遊観光の促進が期待

▼県境を跨ぐインバウンド観光



▼訪日外国人宿泊者数（冬期:1月～3月）



※延べ宿泊数
出典：宿泊旅行統計調査（観光庁）より集計

▼インバウンド拡大に向けた取組み

■日本三大樹氷ブランド化誘客推進事業

(山形市・北秋田市・青森市で連携)
・H29.2海外旅行エージェントを招き国際樹氷サミットin山形蔵王」を開催



■国連世界観光会議

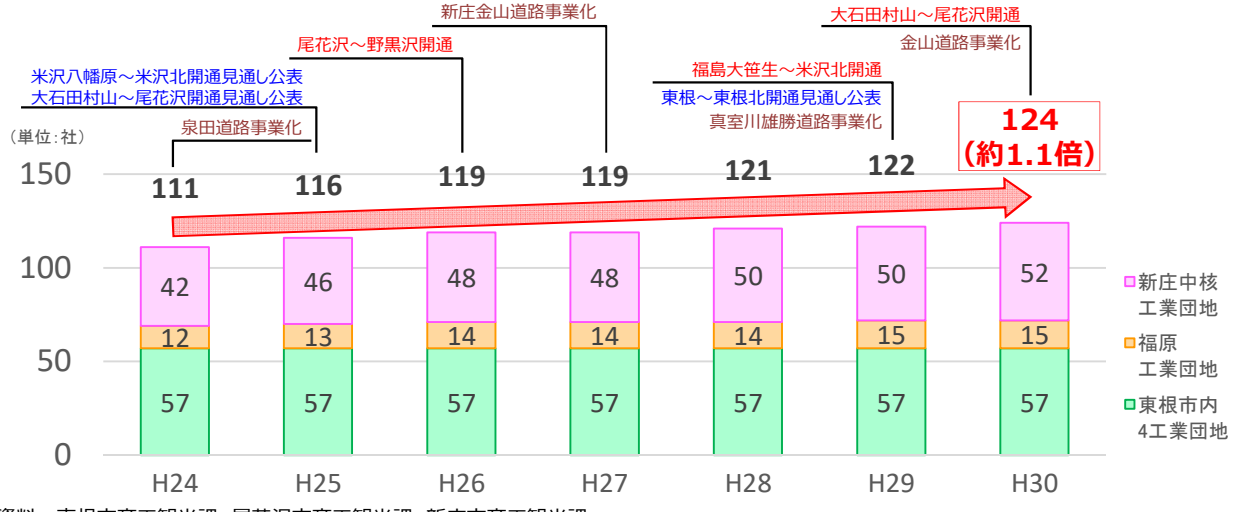
・H30.2山形県で東北初開催
・27の国・地域から302名が参加
・会議や視察旅行を通し、「雪と山」をテーマに山形県、東北の魅力を全世界に発信



地域産業の活性化を支援

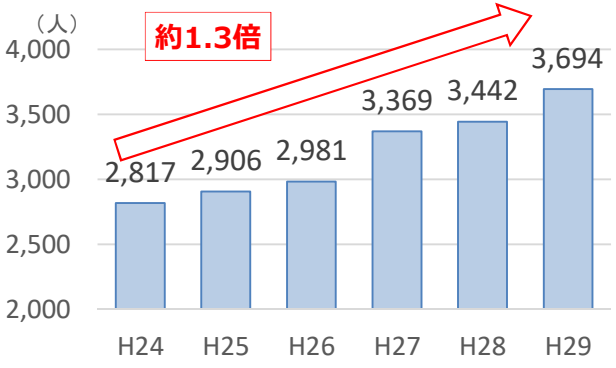
◆東北中央道沿線地域では、道路ネットワーク整備の推進に合わせ、企業立地も増加傾向
◆原木材料が豊富な秋田県南地域や山形県最上地域からのアクセス性向上が期待される山形県新庄市では、平成２８年度に大手国産材製材会社が進出（新規雇用約60人）
◆真室川雄勝道路を含む東北中央道の整備により、原木材料の入荷や関東方面への物流効率化、地域雇用の拡大等、地域産業の活性化を支援

■東北中央道沿線（東根市以北工業団地※）で進む企業立地



資料：東根市商工観光課、尾花沢市商工観光課、新庄市商工観光課
※東根市、尾花沢市、新庄市の最も規模の大きい工業団地を集計

■東北中央道沿線（東根市以北）で増加する有効求人数



資料：山形県労働局（村山・新庄職業安定所）

■ 沿線立地企業の声

●東北中央道等の高速道路の整備による東北各地へのアクセス性の良さなどを理由に、新庄市に新たに進出した。
●原木の入荷は県内を中心としつつも、県外も含めた100km圏内を集材範囲と捉えており、製材の出荷は関東が中心となっている。今後東北中央道などの道路整備が進めば、物流の効率化による生産性向上も期待されるため、広域的な取引拡大にもつなげていきたい。
（木材加工事業者　H31.2）

■ 東北中央道を利用した原木、製材の動き

